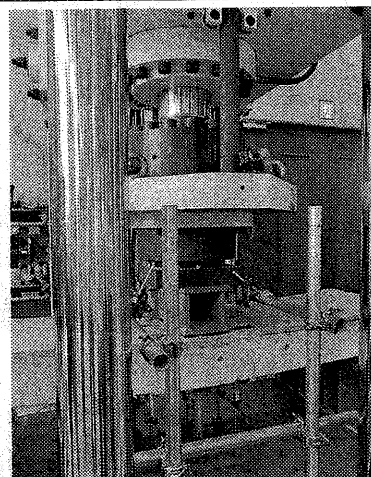


水平ひび割れに注意を

埼玉橋梁メンテナンス研
ものつくり大で技術研修会

埼玉県内の産学官6者で構成する「埼玉橋梁メンテナンス研究会」(代表・睦好宏史埼玉大学名誉教授)は、埼玉県行田市のものつくり大で11日に「橋梁メ



RC床版の載荷実験

ンテナンス技術研修会」を開いた。自治体職員や民間技術者ら15人が参加。講義や実習の様子はオンライン配信した。

研究会ではRC床版の載荷実験と非破壊検査の講義、実習などを行った。大垣賀津雄ものつくり大技能工芸学部教授が、最近のRC床版劣化の傾向と補修対策を説明。大垣教授は「スパイクタイヤの全面禁止以

ら塩分を含む水が浸透し『水平ひび割れ』が生じるリスクが高くなっている」などと話した。

同研究会は2018年の設立で、埼玉県内にある道路橋の維持管理、補修・補強に関する情報収集や技術研究などを目的にしている。構成員は▽埼玉大▽備前大▽関東地方整備局大宮国道事務所(オブザーバー)▽埼玉県▽さいたま市▽埼玉県建設コンサルタント技術研修協会(安田陽一会長)。事務局は埼玉大研究機構レジリエント社会研究センターが務めている。